



常磐病院ではロボット手術を2012年から開始しています。その後、前立腺がんの手術をはじめとして、現在では腎臓がん、腎盂尿管がん、膀胱がんなどの泌尿器科がんだけではなく、女性にみられる膀胱癌や子宮脱などの骨盤臓器脱への手術もロボット（ダビンチXi）を用いて行なっています。今回はロボット手術がいままでの腹腔鏡の手術



精密 × 安全 × 低負担

常磐病院のロボット手術

常磐病院のロボット手術実績

(件)

	2021	2022	2023	2024	2025
根治的腎摘出術	0	8	12	16	12
腎部分切除	25	35	25	30	21
腎尿管全摘除術	0	18	17	15	20
膀胱全摘除術	21	16	8	11	8
前立腺全摘除術	99	91	102	82	106
腎盂形成術	5	10	4	5	2
仙骨脛固定術	6	11	18	11	5

と比べて優れているとされるところを、当院で最も多く行っている前立腺の手術で深掘りしてみました。

公益財団法人ときわ会 常磐病院  
泌尿器科 副部長 小内 友紀子

日本泌尿器科学会専門医、指導医  
日本透視医学会専門医、指導医  
日本排尿機能学会専門医  
透折/バスキュラーアクセスインターベンション治療専門医  
透折/バスキュラーアクセスインターベンション血管内治療医

平成 7年3月 東京女子医科大学 卒業  
平成 7年4月 東京女子医科大学腎センター外科系入局  
平成18年3月 医学博士号取得  
平成23年4月 東京女子医科大学泌尿器科医局長  
平成29年1月 東京女子医科大学 講師  
平成30年4月 ときわ会常磐病院



「縮小」して動かす機能と、手ぶれを自動で消してくれる機能があるため、ミリ単位の細かい作業がしやすくなります。

さらに、手の動きを小さく「縮小」して動かす機能と、手ぶれを自動で消してくれる機能があるため、ミリ単位の細かい作業がしやすくなります。

「同じようにお腹をあけずにする手術」でも、ロボットの助けがあることで、より体にやさしい形で行えると考えられています。(裏面へ続く)

(1) 細かく正確に動かすことができる  
ロボット手術では、医師はモニターを見ながら、指先でコントローラーを操作し、ロボットの腕を動かします。

このロボットの先端には「関節」があり、人間の手首よりも広い角度で自由に曲げ伸ばしができます。

その結果、手術後に歩き出したり、ご飯を食べたりできるようなのが早く、入院の日数も短くできることが多いと言われています。

このあと詳しく解説していきます。

- なにがすごいのか？  
ロボット手術
- ① 細かく正確に動かすことができる
  - ② 患者さんの体への負担が少なく、術後の回復が早い
  - ③ 大事な神経や筋肉を守りやすい



(2) 患者さんの体への負担が少なく、術後の回復が早い  
ロボット手術も腹腔鏡手術と同じく、お腹にあける穴は小さくて数か所ですが、ロボットの性能のおかげで、その小さな穴からより精密な手術ができます。

傷が小さいほど、皮膚や筋肉を大きく切らずにすむため、出血が少なく、手術後の痛みも軽くなります。

また、高画質で立体的(3D)な映像を見ながら手術できるので、体の中の細かい血管や神経を立体的に確認しながら、安全に切ったり縫ったりできます。

ときわ会常磐病院では、地域の医療施設・介護施設との連携を強化するため、当院の最新の医療情報を定期的にお知らせしております。



**(3) 大事な神経や筋肉を  
守りやすい**

前立腺がんなど泌尿器科の手術では、「尿もれを防ぐ筋肉」や「性功能に関わる神経」をできるだけ傷つけないことが、とても大事になります。

ロボット手術では、先端がよく曲がる鉗子と、ブレの少ない細かい動きのおかげで、がんをしっかり取る一方で、周りの神経や筋肉を丁寧によけながら作業しやすくなっています。

そのため、手術後の尿失禁（尿もれ）や性功能の回復が、従来の方法より良くなる可能性があることが、多くの施設で報告されています。

**医師から見たその他の  
ロボット手術のメリット**

●手術室の誰も手術画像を見られる、事前に勉強できる、後から復習できる

高精度の画像は手術室の中の複数のモニターに同時映ります。手術をしている医師はもちろん、指導的な医師、助手の医師、手術サポートの看護師、麻酔科医師、臨床工学技師など、他のスタッフも画像を共有することが出来ます。また、上手な医師の画像を何度も事前にみて勉強したり、自分の手術した画像を見直して今後の手術に活かしたりすることもできます。

**途中で代われる**

常磐病院のダビンチXiは、ダブルコンソールといって手術担当医師用のブースが2つあるタイプです。指導医師と、手術をする医師が各ブースに座っており、難しい場面では指導医師にボタンひとつで切り替えることができます。これにより経験が少し浅い医師も安全に手術を行うことが可能となっています。

**疲れない**

手術をする医師はもちろん、助手の医師、看護師も手術中は座ることが出来ます。もちろん立っている場面もありますが、座って落ち着いて手術をすることで疲労をおさえることができます。

**TOP2+**  
01

**学校法人医療創生大学と  
連携協定を締結しました**

2026年1月27日、学校法人医療創生大学と、地域医療の充実を目的とした連携協定を



締結しました。本協定は、教育・研究・臨床の各分野において大学と医療機関が相互に連携し、医療人材の育成と医療の質の向上を図ることを目的としています。

当院では、学生の臨床実習の受け入れや、大学教員による職員向け研修、共同研究、臨床現場での協働などを通じて、実践力のある医療従事者の育成に取り組んでまいります。

今後とも地域に根ざした医療機関として、医療創生大学と連携しながら、いわき市の地域医療の発展に貢献していきます。

**TOP2+**  
02

**「専攻医1名が入職」常磐病院 泌尿器科  
専攻医プログラムがスタート**

医師になるとまず初めに、内科、外科、産婦人科、麻酔科、小児科、救急科、精神科などいろいろな科を幅広く勉強する初期研修が2年あります。初期研修を終え、自分の希望する〇〇科という専門分野に進みます。泌尿器科では4年間のプログラムを経て、泌尿器科専門医となります。泌尿器科専攻医というのは、その泌尿器科専門医を目指している医師のことです。

院自前のプログラムでの専攻医育成がスタートし、1名の専攻医が加わりました。いわき発の泌尿器科専門医の育成を皆で応援したいと思っています。



**公益財団法人ときわ会 常磐病院 (院長 新村浩明)  
地域医療連携課**

窓口受付/毎週月曜日～金曜日 8:30～17:00  
〒972-8322 福島県いわき市常磐上湯長谷町上ノ台57番地  
TEL:0246-81-5522 / FAX:0246-81-5577

ときわ会常磐病院では、診療科の増加に伴い診察可能な疾患も増えました。患者様のご紹介に関しまして、今後もお気軽にお問い合わせくださいますようお願いいたします。